

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的長期研修】

受託団体名 群馬県日本語教育支援政策研究会

1 事業の趣旨・目的

群馬県は全国でも有数の日系人の集住地区を有し、各地域で様々な日本語教室が開催されているが、それぞれの教育内容・方法や運営に以下のような課題がある(平成 20 年度文化庁委託事業による本研究会の調査による)。

- ① 日本語教室で教えるボランティアが不足している。
- ② 新規ボランティアの養成ができる指導員が欠如している。
- ③ 日本語教室で教える内容・教える期間などが決まっていない。
- ④ 日本語の指導法に不安を持っている。

現在群馬県では、上記のような内容を解決できるような人材(コーディネーター)が存在しておらず、今後の日本語教育支援のためにも、そのような人材を育成していく必要がある。

本講座はこのような現状を鑑み、地域の現状・課題に合わせた日本語教育支援プログラム及び教材開発を行える人材の育成を目標とした。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
① 8月4日(火) 16時～ 17時30分	群馬県庁 141 会議室	企画委員 (6名) 事務補助 (1名)	①委託事業内容の確認 ②事業計画の検討 ③今後の予定	本研修事業の目的と内容に関するコンセンサスをとった。その上で、具体的な研修内容と担当、及び、今後の予定について検討した。
② 8月7日(金) 18時～ 19時30分	群馬県立 女子大学 352 研究室	企画委員 (4名) 事務補助 (1名)	①研修の実施時期について ②研修の内容について	当初、研修の開始は10月を予定していたが、諸般の事情により、1月以降に行うこととした。また、それに伴い、研修内容の修正を行った。

③ 12月16日(水) 15時30分～ 17時	群馬県立 女子大学 352 研究室	企画委員 (3名) 事務補助 (1名)	①研修実施時期の再調整 ②研修内容の再検討 ③受講者の募集方法と応募書類について	業務委託の手続きが遅れていることから、研修の実施時期を再調整し、3月に行うことを決定した。また、時期と期間の変更により、内容の再検討を行った。 受講者の募集方法と応募書類の内容について議論した。
④ 2月18日(木) 15時～ 17時	群馬県立 女子大学 352 研究室	企画委員 (5名) 事務補助 (1名)	①受講者の募集状況 ②研修日程の確定 ③担当講師の調整	事務局から受講者の応募状況について報告を受け、応募方法の検討と応募書類の内容について確認した。また、研修日程の確定とそれぞれの担当講師の調整を行った。
⑤ 2月18日(木) 17時30分～ 19時30分	群馬県立 女子大学 352 研究室	企画委員 (5名) 事務補助 (1名)	①研修内容の確定 ②報告書の作成に向けて	研修日程と担当講師の確定を受け、研修の目標の確認をした。その上で、研修内容について細部にわたり議論した。また、報告書の作成に向けて執筆分担を行った。
⑥ 3月10日(水) 13時～ 14時30分	群馬県立 女子大学 352 研究室	企画委員 (3名) 事務補助 (1名)	①研修の進捗状況 ②受講者の反応 ③研修日程の再調整	研修担当者から講座の進捗状況について説明があった。また、事務局から受講者の要望等について報告があった。これを受け、研修日程の再度の調整を行った。
⑦ 3月31日(水) 13時～	群馬県立 女子大学 352 研究室	企画委員 (2名) 事務補助	①報告書の確認 ②経費関連の検討 ③研修後の活動計画	研修を担当した企画委員及び事務補助者による報告書の最終確認を

15時		(1名)		行った。関連して、経費関係のチェックも行った。また、受講者からのアンケートをもとに、研修後の企画委員会としての活動計画について話し合った。
-----	--	------	--	---

【写真】



3 研修講座の内容について

- (1) 研修講座名： 地域日本語教育・支援コーディネーターになるために
- (2) 研修の目標： 「生活者としての外国人」の生活環境向上のため、地域の現状・課題に合わせた日本語教育支援の企画、教材開発、日本語教室の運営に貢献し得る人材(コーディネーター)を育成することを目標とした。
- (3) 受講者の総数： 18 人
- (4) 開催時間数(回数) 21 時間 (14 回)
- (5) 参加対象者の要件： 以下の1～6のいずれかに該当する方を対象とした
1. 日本語教育(ボランティア、日本語学校等)に携わっている方
 2. 日本語教育能力検定試験合格者
 3. 大学等で日本語教育のトレーニングを受けた方
 4. 日本語教員養成 420 時間修了者
 5. 国際交流協会や NPO など日本語教室運営に携わっている方、及び
 6. 上記1～5に準ずる方

(6) 受講者の募集方法

【方法と媒体】

- ・群馬県庁・国際課ホームページへの掲載
- ・各地域の日本語教室を有する国際交流協会への呼びかけ(チラシの配布等)
- ・本研究会の研修に前年度参加した方への呼びかけ(チラシを添付した電子メールやFAX)

【応募書類と応募方法】

- ・以下のチラシの申込書に必要事項を記入し電子メールで受け付けた。

-----チラシ添付 (はじまり) -----

「群馬県日本語教育支援政策研究会 (群馬県国際課・群馬県立女子大学による連携)」主催

地域日本語教育・支援ボランティアを対象とした実践的研修

「コーディネーターになるために」

参加者募集のお知らせ

「群馬県日本語教育支援政策研究会 (群馬県国際課・群馬県立女子大学による連携)」では、文化庁の委託(「生活者としての外国人」のための日本語教育事業)を受け、地域日本語教育・支援に携わるボランティアを対象とした実践的研修「コーディネーターになるために」を行うことになりました。つきましては、下記の要項でこの研修への参加者を募集いたします。

1 目的

この研修は、群馬県内の「生活者としての外国人」の生活環境向上のため、地域の現状・課題に合わせた日本語教育・支援の企画、教材開発、日本語教室の運営などに貢献し得る人材(コーディネーター)を育成することを目的としています。

2 内容

この研修では、まず「群馬の日本語教育・支援における課題」について多角的に検討し、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の背景的な理解を深めます(リストの①と②)。ここでの共通理解を基に、続く研修では、それぞれ「文型積み上げ型」のシラバス・教材・指導法など(③⑤⑦⑨)を批判的に検討し、本研究会で新たに提案する「生活者としての外国人」に対する日本語教育に特化した「タスク積み上げ型」のシラバス・教材・指導法など(④⑥⑧⑩)の理解を深めます。

- ①群馬の日本語教育・支援における課題 A：定住外国人の多様性（90分）
- ②群馬の日本語教育・支援における課題 B：地域日本語教室の役割（90分）
- ③シラバス研究 A：構造重視・文型積み上げ型シラバスの問題点（90分）
- ④シラバス研究 B：問題解決・「タスク積み上げ型」シラバス入門（90分）
- ⑤教材研究 A：留学生向け・文型中心の総合教科書の問題点（90分）
- ⑥教材研究 B：生活者向け・「タスク積み上げ型」教材入門（90分）
- ⑦指導法 A：文型練習中心の教室活動の問題点（90分）
- ⑧指導法 B：対話重視の「タスク積み上げ型」教室活動入門（90分）
- ⑨ワークショップ A：「構造重視・文型積み上げ型」の日本語教育（90分）
- ⑩ワークショップ B：「問題解決・タスク積み上げ型」の日本語教育（90分）

シラバスに関する③と④、教材に関する⑤と⑥、指導法に関する⑦と⑧、模擬実習を含む⑨と⑩のように、それぞれ「文型積み上げ型」と「タスク積み上げ型」を比較しながら演習形式で進めていきます。

3 日程と会場

2つのコース（毎週火曜コース、土日ダイジェストコース）を設けます。それぞれ日時や会場が異なりますので、ご注意ください。

【火曜コース】 15h(3月2日(火)～3月30日(火)の毎週火曜日・時間 13:00～16:10)

会場:群馬県立女子大学 352 研究室

日時		内容
3月2日 (火)	13:00～14:30	① 群馬の日本語教育・支援における課題 A：定住外国人の多様性
	14:40～16:10	② 群馬の日本語教育・支援における課題 B：地域日本語教室の役割
3月9日 (火)	13:00～14:30	③ シラバス研究 A：構造重視・文型積み上げ型シラバスの問題点
	14:40～16:10	④ シラバス研究 B：問題解決・「タスク積み上げ型」シラバス入門
3月16日 (火)	13:00～14:30	⑤ 教材研究 A：留学生向け・文型中心の総合教科書の問題点
	14:40～16:10	⑥ 教材研究 B：生活者向け・「タスク積み上げ型」教材入門
3月23日 (火)	13:00～14:30	⑦ 指導法 A：文型練習中心の教室活動の問題点
	14:40～16:10	⑧ 指導法 B：対話重視の「タスク積み上げ型」教室活動入門
3月30日 (火)	13:00～14:30	⑨ ワークショップ A：「構造重視・文型積み上げ型」の日本語教育
	14:40～16:10	⑩ ワークショップ B：「問題解決・タスク積み上げ型」の日本語教育

【土日ダイジェストコース】 12h(3月13日(土)と3月14日(日)の2日間・時間 17:40～20:50)

会場:群馬県庁 13日(土)29階 292会議室、14日(日)29階 293会議室

※このコースは、ダイジェスト版であり、③と⑤の内容が含まれませんので、ご注意ください。

日時		内容
3月13日 (土)	13:00～14:30	① 群馬の日本語教育・支援における課題 A：定住外国人の多様性
	14:40～16:10	② 群馬の日本語教育・支援における課題 B：地域日本語教室の役割
	16:30～18:00	④ シラバス研究 B：問題解決・「タスク積み上げ型」シラバス入門
	18:10～19:40	⑥ 教材研究 B：生活者向け・「タスク積み上げ型」教材入門
3月14日 (日)	13:00～14:30	⑦ 指導法 A：文型練習中心の教室活動の問題点
	14:40～16:10	⑧ 指導法 B：対話重視の「タスク積み上げ型」教室活動入門
	16:30～18:00	⑨ ワークショップ A：「構造重視・文型積み上げ型」の日本語教育
	18:10～19:40	⑩ ワークショップ B：「問題解決・タスク積み上げ型」の日本語教育

4 講師

地域日本語教育を専門とする大学教員・研究者

5 参加費用

研修への参加費用は無料ですが、会場までの交通費は各自ご負担ください。

なお、群馬県庁・会場では、駐車券の配布は行いません。駐車料金は各自ご負担ください。

6 応募要項

【受講者要件等】 以下の(1)～(6)のいずれかに該当する方

(1)日本語教育（ボランティア、日本語学校等）に携わっている方、(2)日本語教育能力検定試験合格者、(3)大学等で日本語教育のトレーニングを受けた方、(4)日本語教員養成420時間修了者、(5)国際交流協会やNPOなどで日本語教室運営に携わっている方、及び、(6)上記(1)～(5)に準ずる方

【応募書類】 別添の「参加申込書」で申し込み下さい。

【応募書類提出先】

下記の電子メール宛にご提出下さい。なお、応募書類の個人情報は、本件のみに使用します。

E-mail: gunmajapanese@gmail.com (群馬県日本語教育支援政策研究会)

【連絡先】

群馬県生活文化部国際課多文化共生推進係 TEL：027-226-3396 / FAX：027-223-1692

E-mail: gunmajapanese@gmail.com ※お問い合わせはなるべく電子メールでお願いします。

<別紙>.....

実践的研修「参加申込書」

(ふりがな) 氏名		()		
勤務先・ 所属団体名			職名 (あれば)	
連絡先	住所	〒 — (自宅・勤務先)		
	電話 番号	() —	FAX番号	() —
Eメール				
日本語指導歴 又は日本語教 室運営関連歴	期 間	活動先、職務・活動内容等		
	年 月～ 年 月			
	年 月～ 年 月			
	年 月～ 年 月			
	年 月～ 年 月			
日本語教育に 関する資格等	(昨年度本研修参加、日本語教育能力検定試験合格、養成講座420時間修了など)			
現状の地域 日本語教育 における課題 について、 ご自由に お書きください				

※ 必要に応じて別紙を使っても結構です。

※ いただきました個人情報は厳重に管理し、本講座関連事業以外の用途には使用しません。

-----チラシ添付（おわり）-----

(7) 研修会場

ア 講義:群馬県立女子大学講義室(玉村町)、群馬県庁会議室(前橋市)

イ 実習:群馬県立女子大学講義室(玉村町)、群馬県庁会議室(前橋市)

(8) 使用した教材・リソース

自作教材を中心に担当講師が適宜作成、準備した教材・リソース

(9) 講座内容

それぞれの地域の現状・課題に合わせた日本語教育・支援プログラム及び教材開発を行える人材を育成することを目的として、以下の内容を柱とした研修を行った。

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
3月2日 13:00～ 14:30	群馬の日本語教育・支援 における課題 A: 定住外国人の多様性	群馬県立女子大学・講師 伊藤健人 (他講義補助者 1 名)	7 人
3月2日 14:40～ 16:10	群馬の日本語教育・支援 における課題 B: 地域日本語教室の役割	群馬県立女子大学・講師 伊藤健人 (他講義補助者 1 名)	7 人
3月9日 13:00～ 14:30	シラバス研究 A: 構造重視・文型積み上げ 型シラバスの問題点	群馬県立女子大学・講師 伊藤健人 (他講義補助者 1 名)	9 人
3月9日 14:40～ 16:10	シラバス研究 B: 問題解決・「タスク積み上 げ型」シラバス入門	群馬県立女子大学・講師 伊藤健人 (他講義補助者 1 名)	9 人
3月13日 13:00～ 14:30	群馬の日本語教育・支援 における課題 A: 定住外国人の多様性	群馬県立女子大学・ 非常勤講師 ヤン・ジョンヨン (他講義補助者 1 名)	9 人
3月13日 14:40～ 16:10	群馬の日本語教育・支援 における課題 B: 地域日本語教室の役割	群馬県立女子大学・ 非常勤講師 ヤン・ジョンヨン (他講義補助者 1 名)	9 人
3月13日 16:30～ 18:00	シラバス研究 A: 構造重視・文型積み上げ 型シラバスの問題点	群馬県立女子大学・ 非常勤講師 ヤン・ジョンヨン (他講義補助者 1 名)	8 人

3月13日 18:00～ 19:40	シラバス研究 B: 問題解決・「タスク積み上 げ型」シラバス入門	群馬県立女子大学・ 非常勤講師 ヤン・ジョンヨン (他講義補助者 1 名)	8 人
3月16日 13:00～ 14:30	教材研究 A: 留学生向け・文型中心の 総合教科書の問題点	群馬県立女子大学・講師 伊藤健人 (他講義補助者 1 名)	10 人
3月16日 14:40～ 16:10	教材研究 B: 生活者向け・「タスク積み 上げ型」教材入門	群馬県立女子大学・講師 伊藤健人 (他講義補助者 1 名)	10 人
3月23日 13:00～ 14:30	指導法 A: 文型練習中心の教室活 動の問題点	群馬県立女子大学・講師 伊藤健人 (他講義補助者 1 名)	10 人
3月23日 14:40～ 16:10	指導法 B: 対話重視の「タスク積み 上げ型」教室活動入門	群馬県立女子大学・講師 伊藤健人 (他講義補助者 1 名)	10 人
3月30日 13:00～ 14:30	ワークショップ A: 「構造重視・文型積み上 げ型」の日本語教育	群馬県立女子大学・講師 伊藤健人 (他講義補助者 1 名)	12 人
3月30日 14:40～ 16:10	ワークショップ B: 「問題解決・タスク積み上 げ型」の日本語教育	群馬県立女子大学・講師 伊藤健人 (他講義補助者 1 名)	12 人

(10) 講座の評価

①受講者に対するアンケート

受講者に対して以下の 3 項目についてアンケートを実施した。いただいたアンケートを項目ごとにまとめる。

<アンケート項目>

- I 群馬県の日本語教育・支援における課題(研修の①②)について思ったこと、疑問に感じたことなど
- II 従来の構造重視の文型積み上げ型シラバスと問題解決型タスク積み上げ型シラバスとの比較(研修③～⑧)を通して思ったことや疑問に感じたことなど
- III その他

<アンケート結果一部(ほぼ原文のまま掲載する)>

I 群馬 県 の 日 本 語 教 育 ・ 支 援 に お け る 課 題 に つ い て	<p>【研修内容について】</p> <ul style="list-style-type: none">・ボランティア教室の現状を講師や参加者から直接聞くことができ、教室内で生活支援と日本語教育が混ざって日本語習得が進まない、日本語教育の専門知識がないボランティアの方が生活者に留学生向けのテキストを使って授業を行ってしまいニーズとのミスマッチがおきるなど問題点を知ることができた。・県外から参加している者です。群馬県とは外国人の出身国構成など異なりながらも、抱えている日本語教育における課題は共通項が多く、改めてマクロな視点から自分が行なっている支援活動について考えるきっかけとなりました。・提示された参考資料は、地域日本語教室の役割、狙い、その活動に必要なことなど整理するのに役立ちます。 <p>【ボランティア日本語教室の現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・学習者の求める日本語教室と国際交流協会が考えている日本語教室には隔たりが見て取れる。・既に地域に定住している外国人の日本語能力の実態調査をした上で、学習機会の提供をどのようなしていくのかを検討し、効率的な支援をしていきたいと思うが、なかなか難しい。・日本語教室に来る学習者の方の中には、多種のニーズに加え、明確なニーズが見えない人も多く、学習者と支援者のお互いが授業のゴールを共有できないまま、何回か後、学習者が教室に来なくなる、というケースがありました。より授業に来たくなるような活動、ニーズを顕在化し、ゴールを提示/目指すためのメニュー作りが必要と感じました。・より効果的な支援を行うには、生活支援と日本語の授業を分け、日本語教育部分は対象学習者のレベルやニーズに合わせてコースデザインや教材作成、指導ができる専門家の支援が必要だと思う。 <p>【行政への意見】</p> <ul style="list-style-type: none">・主に大学や行政が関わる日本語教室は、国によって示された日本語習得(支援)の指針とそれに沿ったシラバスや教材によって行われ、日本語教室の会場や運営等にかかる予算などが確実に確保されなければならないと思う。
---	---

	<p>・官学によると思われる取り組みが行われているようですが、実際に活動しているボランティアにはそれを知る機会が与えられていないと感じる。</p>
<p>Ⅱ 文 型 積 み 上 げ 型 と タ ス ク 積 み 上 げ 型 の 比 較 を 通 し て</p>	<p>【文型積み上げ型シラバスとタスク積み上げ型シラバスを比較して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タスク積み上げ型は、文型積み上げ型にとってかわるものではなく、中級以上の学習者に対して文型積み上げ型シラバスの欠点を解決する有効なシラバスだと思いました。 ・問題解決型タスク積み上げ型は学習効率を良くすると思う。一方文型積み上げ型は基本文型を総じて学習するには、良い面があると思います。 ・両シラバスを理解した上で、学習者にあったシラバスを選択できるとよいと思う。 ・このアプローチは、生活者の外国人に対する支援として、一人ひとりのニーズの受け皿足りえる、多種のニーズに対応できるものだと思います。 ・概要を聞き、各自がすでに持っている日本語スキルを使って、問題解決を行うタスク活動を行えば、学習者の覚える負担は少なく、また各レベルで萎縮することなく活発な活動とタスク達成の満足感が得る場を提供できると思った。 ・場面と機能の難易度が必ずしも一致しない点は疑問に感じたが、コミュニケーション能力の向上には効果があるのではないかと感じた。 ・「タスク積み上げ型」は「他の場面・状況と置き換えられる」タスクの選択と展開に工夫が求められると思う。 <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんある各々の地域での現場の状況を把握することは大事であると思うので、私もそうした観点にたって情報を提供できるように見方を変えてみたいと思います。 ・タスク積み上げ型シラバスと文型積み上げ型シラバスを理解し、使い分け、活用できるボランティアを育成するのか、ボランティア任せでよいのかは疑問を感じる。 ・タスクの選定、それらの積み上げ設計をして雛型をまとめるには専門家の多大なご努力を待つことになると思いますが、ボランティアとしても試しながら作ることが出来るかも

	しれないと思いました。
Ⅲ そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のスキルを使って地域貢献できないかと考えていた中で、各ボランティア教室の方々と会って、いろいろな話や考えを聞くことができました。 ・今後もこうした活動を通じて、地域のネットワークに参加したり、講義で学んだ手法を実践に取り入れたりできればと思います。

②実施主体からの研修内容結果評価

【成果】

◆総評

限られた期間・回数・場所であったが、研修内容に関して受講者から好評が得られた。

＜アンケートより(原文のまま)＞

- ・受講させて頂き、群馬の外国人生活者への日本語支援の現状や新たなシラバスのアプローチなど、有意義な情報を得ることができました。ありがとうございました。
- ・地域の日本語教室の現状や、実際に教えていらっしゃる方々のご苦勞がよくわかり、大変勉強になりました。
- ・群馬県における、地域の日本語教室の必要性がよくわかった。
- ・提示された参考資料は、地域日本語教育(ボランティアによる)の役割、狙い、その活動に必要な事など整理するのに役立ちます。ボランティアの間で行う運営に関する相談の場で、議論する骨組みとなります。
- ・参加者の皆様の「支援したい」「どうしたら現状をよくできるか」という熱心な気持ちに、とても刺激を受けました。貴重な研修をどうもありがとうございました。
- ・自分のスキルを使って地域貢献できないかと考えていた中で、各ボランティア教室の方々と会って、いろいろな話や考えを聞くことができました。今後もこうした活動を通じて、地域のネットワークに参加したり、講義で学んだ手法を実践に取り入れたりできればと思います。

◆「群馬の日本語教育・支援における課題」について

研修内容の構成として工夫したのは、一連の講座の初回に「群馬の日本語教育・支援における課題」として、「定住外国人の多様性」や「地域日本語教室の役割」を配したことである。これにより、受講者・講師共に地域日本語教育・支援に関する共通理解が得られ、議論すべきポイントが整理できた。

<アンケートより(原文のまま)>

- ・参加者が日本語教室に求めているものも違い(交流、日本語学習)、支援する人と教室の足りなさを感じた(=財政面での費用が必要)。
- ・生活支援と日本語教育と、分野や役割を分けることで目的や必要スキルがはっきりし、ボランティアの方の負担も軽減し、現状の問題で解決できるものも多いと思う。
- ・県外から参加している者です。群馬県とは外国人の出身国構成など異なりながらも、抱えている日本語教育における課題は共通項が多く、改めてマクロな視点から自分が行なっている支援活動について考えるきっかけとなりました。
- ・教室内で生活支援と日本語教育が混ざって日本語習得が進まない、日本語教育の専門知識がないボランティアの方が生活者に留学生向けのテキストを使って授業を行ってしまいニーズとのミスマッチがおきるなど問題点を知ることができた。
- ・より効果的な支援を行うには、生活支援と日本語の授業を分け、日本語教育部分は対象学習者のレベルやニーズに合わせてコースデザインや教材作成、指導ができる専門家の支援が必要だと思う。

地域日本語教育・支援を考える場合、射程となる領域が膨大である反面、議論が微細な個々の事例に終始してしまうという、マクロ的な観点とミクロ的な観点が混在したバランスの悪さが生じやすく、その結果、議論の焦点が一部の個としての課題に終始してしまい、なかなか話が全体としての有意義な解決策等に向かないことが多い。その意味で、本研修の試みは、概ね効果的であったと思われる。

◆対話を重視した「タスク積み上げ型」の日本語教育について

受講者のアンケートにもあるように、一部の日本語教室では、「生活者に留学生向けのテキストを使って授業を行ってしまいニーズとのミスマッチがおきる」という問題が生じている。これは、冒頭で述べた本企画委員会で把握している群馬県における日本語教育の課題の③「日本語教室で教える内容・教える期間などが決まっていない」、④「日本語の指導法に不安を持っている。」と同様の指摘である。

本研修で行った内容面の講座では、地域日本語教育に特化した、生活者としての外国人との対話を重視する「タスク積み上げ型」の日本語教育の考え方について、なじみのある「文型積み上げ型」と比較しながら共に学んでいった。「タスク積み上げ型」の日本語教育については、まだ開発途上にあるが、この考え方にも一定の理解と賛同を得られた。

<アンケートより(原文のまま)>

- ・問題解決型タスク積み上げ型シラバスでのアプローチは、生活者の外国人に対する支援として、一人ひとりのニーズの受け皿足りえる、多種のニーズに対応できるものだと思います。

- ・タスク積み上げ型シラバスの概要を聞き、各自がすでに持っている日本語スキルを使って、問題解決を行うタスク活動を行えば、学習者の覚える負担は少なく、また各レベルで萎縮することなく活発な活動とタスク達成の満足感が得る場を提供でき、学習継続のモチベーションになると思う。
- ・タスク積み上げ型は、文型積み上げ型にとってかわるものではなく、中級以上の学習者に対して文型積み上げ型シラバスの欠点を解決する有効なシラバスだと思えました。



【課題】

群馬県では、公共の交通機関が十分に発達しておらず、移動手段が自動車に限られ、距離や時間に制約があるため、異なる時期に異なる場所で複数回の研修を実施する必要がある。このような課題は、本企画委員会や他の群馬県の日本語教育関係の会議でも指摘されており、それに応じた研修の実施（同内容を複数回、異なる場所で行う）を計画していたが、業務委託等に関する手続き上の事情により、当初計画していた時期に研修を実施することができなかった。そのため、研修の内容・規模・実施場所を変更せざるを得なくなった。予定していた3月14日(日)は、講義担当者や受講者との調整がつかず実施できなかった。

研修参加希望者からの事務局への問い合わせには、「他の場所で実施できないか」「他の期間に研修を行う予定はないか」などが少なくなかった。

今後は、研修を受けたくても受けられなかった方のために、研修の実施方法について改善していきたい。

③実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

群馬県では、平成21年度から「日本語教育の在り方研究会」や「多文化共生推進懇談会」など県レベルでの日本語教育・支援に関する会議が始まった。その中で、群馬県の日本語教育の課題として、以下の3点が挙げられている。

- 1「環境整備（関係機関との連携、ニーズ調査と分析、日本語教室の設置・運営）」
- 2「人的支援（日本語教員・指導員養成、ブラッシュアップ研修、日本語教員等の派遣）」
- 3「研究開発（地域日本語教育の内容、指導法、評価の研究開発）」

このうち、特に2や3は、日本語教育研究者等が関わる必要があるが、本研修はその一部を

担うとともに、今後本研修の受講者がそれぞれの地域で日本語教育・支援の中心的な役割を担うことが期待される。

(11) 事業の成果

①他事業との連携

【群馬県主催の「日本語教育の在り方研究会」や「多文化共生推進懇談会」との連携】

本研修の受講者からは、県レベルでは把握し切れていないそれぞれの地域の日本語教育・支援における事例の報告や課題等を伺うことができた。このような事例や課題、また、意見や要望を、上で挙げた群馬県主催の「日本語教育の在り方研究会」や「多文化共生推進懇談会」などに伝えていきたい。また、本研修の受講者にそれらの会議等に参加していただき、問題提起を行っていきたい。

②研修後の人材活用

【「日本語教師等人材バンク」による幅広い活躍】

群馬県内では、多くの地域で日系ブラジル人・ペルー人などへの日本語教育関連の有償・無償の講座が多数計画されている。しかしながら、日本語教員等が確保できず、そのような講座が開設できないことも少なくない。そこで、上記「日本語教育の在り方研究会」では、「日本語教師等人材バンク」を設立し、登録者に、そのスキルに応じて、有償・無償のそれぞれの講座を紹介する予定である。本研修の受講者には、この「日本語教師等人材バンク」への登録を呼びかけ、現在活動している日本語教育教室等以外にもより広いフィールドで活躍して頂きたい。

【コーディネーターとしての活躍】

群馬県内のボランティア日本語教室などの一部では(その数はまだ少ないが)、ボランティアどうしの指導法や指導内容等の自主的な研修会(ブラッシュアップのための勉強会)などが開かれているところがある。本研修の受講者には、今後、いわゆるコーディネーターとしてそのような活動の企画や運営などの中心的な役割を担って頂きたい。

また、新規のボランティアに対する研修も日本語教室(各国際交流協会)ごとに様々な形態があり、研修を担当する人材の不足から研修を行っていない組織も少なくない。本研修の受講者が、新規ボランティアの研修等へも中心的に関わっていけるように関係機関に働きかけていきたい。

(12) 今後の課題

【研修の実施方法について(より多くの研修機会の提供)】

上の②実施主体からの研修内容結果評価の【課題】で述べたように、群馬県では、公共の交通機関が十分に発達しておらず、移動の手段や距離的、時間的な制約が大きい。そのた

め、異なる時期に異なる場所で複数回の研修を実施する必要がある。今後は、実施の方法を再検討し、より多くの希望者が研修を受講できるように、同一内容の講座の回数を増やし、複数の場所で、また、時期を変えて研修の機会を増やしていきたい。そのために、関係機関との連携や研修担当者の確保等に努めたい。

【「コーディネーター」の位置づけについて】

研修そのものには関係しないが、地域の日本語教育における「コーディネーター」という役割の理解と重要性の認識が、行政機関、国際交流協会、そして、ボランティア団体等に十分に普及していないと思われる。

群馬県のように、地域の日本語教室が数少ない日本語教育・支援の場だとすれば、そこで効果的な日本語教育と生活支援が行われなければならない。ボランティアの方々に一任された活動だけではうまくいく場合とそうでない場合の差が大きいと思われる。また、ボランティアの方々にとっても負担が大きくなってしまう。やはり、それぞれの組織で、一定の日本語教育・支援に関する専門的な知識や経験を持ったコーディネーターが置かれ、それぞれの活動をよりよいものにしていく必要があるのではないだろうか。そのために、本委員会では、行政機関、国際交流協会、ボランティア団体等に対して、「コーディネーター」の役割の重要性と専門職としての雇用機会の提供などを働きかけていきたい。